

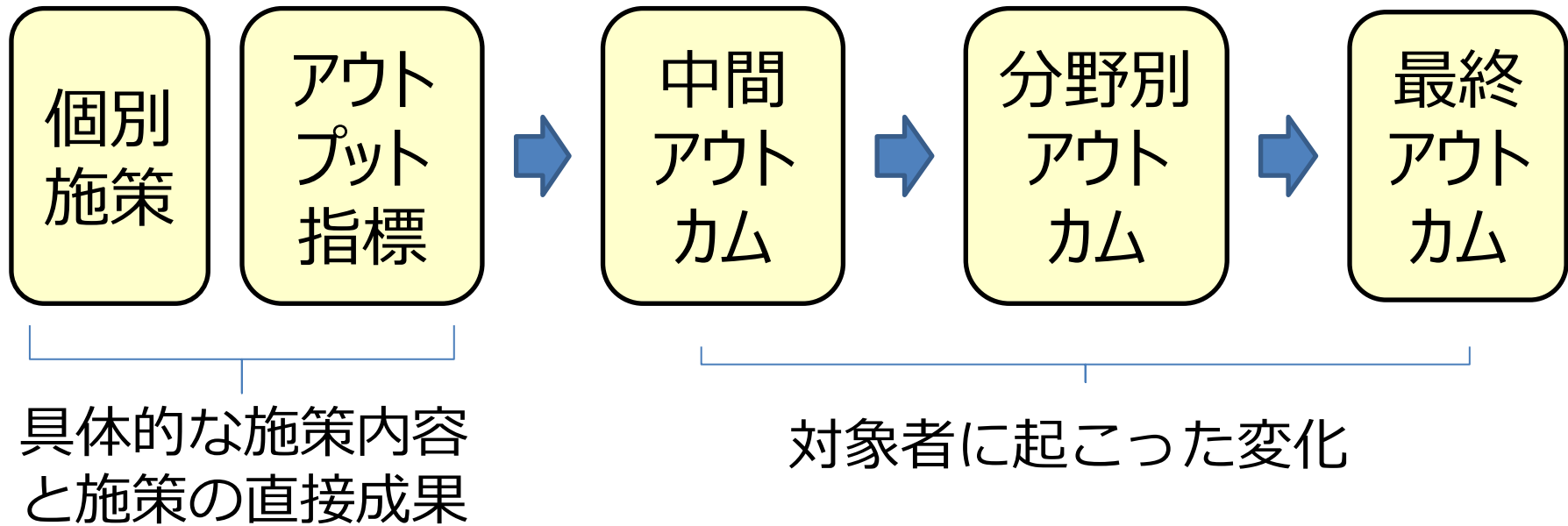
# 第4期がん対策推進基本計画における ロジックモデルについて

筑波大学医学医療系緩和医療学 木澤 義之

# ロジックモデル作成の目的

- 構成を図示して、全体像を把握する。
- アウトカムを共通認識として共有する。
- 個別施策とアウトカム（中間、分野別、最終）のつながりを確認することにより、個別施策の適切さを検討する。
- 指標を設定して、評価につなげる。

# ロジックモデルの構造



- アウトプットとアウトカムが区別しにくいこともある

- 各アウトカムに指標を設定

- 個別施策ごとにアウトプット指標を設定

- 幾つかの個別施策で共通のアウトカム

- 分野ごとに特有のアウトカム

- 対策全体のアウトカム

# 第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル： がんと診断された時からの緩和ケアの推進

## 「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：がん医療提供体制等＜がんと診断された時からの緩和ケアの推進＞

厚生労働省 健康局がん・疾病対策課（令和5年8月9日）

### 緩和ケアの提供について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
21710	拠点病院等を中心とした医療機関において、がん医療に携わる全ての医療従事者により、がん患者の身体的苦痛や、がん患者やその家族等の精神的苦痛、社会的な問題等の把握及びそれらの個別の状況に応じた適切な対応が、地域の実情に応じて、診断時から一貫して行われる体制の整備を推進	拠点病院等の緩和ケアチーム新規診療症例数	-	現況報告書
21710		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料イの算定数	-	NDB
21710	拠点病院等を中心に、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護を担う機関と連携し、在宅を含めた地域における緩和ケア提供体制の整備を推進	緩和ケア外来の新規診療患者数	-	現況報告書
21710		拠点病院等1施設あたりの地域連携推進のための多施設合同会議開催数	-	現況報告書
21710	関係学会等と連携し、国民に対する、緩和ケアに関する正しい知識の普及啓発を引き続き推進。 【拠点病院等】地域の医療従事者も含めた緩和ケアに関する研修を定期的に開催するとともに、地域におけるがん診療や在宅医療に携わる医療機関、関係団体及び地方公共団体と連携し、専門的な疼痛治療を含む緩和ケアに係る普及啓発及び実施体制の整備を進める	神経ブロックの実施数：L101-神経ブロック（神経破壊剤又は高周波凝固法使用）-腹腔神経節ブロック（神経破壊剤又は高周波凝固法使用）の件数	-	検討中（NDB）
21710		緩和的放射線照射の実施数：MO01-3（直線加速器による放射線治療）の2（1以外の場合）の件数	-	検討中（NDB）
21710	入院だけでなく外来等における緩和ケアの充実に向け、専門的な人材の配置等も含め、検討	緩和ケア外来へ地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	-	現況報告書
-	緩和ケアに係る実地調査等を定期的かつ継続的に実施するための方策について、研究を行い、研究結果を踏まえ検討	方策の検討段階のため、指標設定無し	-	-
-	専門的な緩和ケアの質の評価等の方策について研究を行う。また、患者体験調査や遺族調査等により、患者やその家族等に、適切な緩和ケアが提供されているかどうかを、引き続き定期的かつ継続的に把握	指標設定無し（方策の検討段階、及び引き続き実施する取組のため）	-	-
21710	拠点病院等以外の医療機関における緩和ケアの充実に向けて、緩和ケア提供体制の実態や課題等を把握するための調査及び研究を行う	緩和ケア診療加算の算定回数	-	検討中（NDB）
-	終末期医療を受ける場や療養場所の決定に至る意思決定及びこれらの場における終末期医療の意思等について研究を行い、適切な療養場所の提供や、治療やケアの質の向上について検討	検討段階のため指標設定無し（着実に検討を進めること）	-	-

### 緩和ケア研修会について

#	個別施策	アウトプット指標	3期	データソース
21711	緩和ケア研修会の更なる推進に努めるとともに、関係団体等と連携し、医療用医薬品の適正使用や、専門的な緩和ケアへのつなぎ方等の観点も踏まえ、緩和ケア研修会の学習内容や、フォローアップ研修等について検討し、必要な見直しを行う	緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事業

#	中間アウトカム	中間アウトカム指標	3期	データソース
217201	苦痛に対する適切なケア・治療の普及（緩和ケアチームの質向上）	医療者はつらい症状にすみやかに対応していたと感じる割合	-	患者体験調査・遺族調査
217202		患者報告アウトカム（PRO）の症状改善率 *期中に指標を開発予定	-	検討中（日本緩和医療学会からのデータ提供）
217203		身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると感じる患者の割合	2075	患者体験調査
217204		心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じる患者の割合	3011	患者体験調査
217205	がん患者が、医療者に苦痛の表出ができること	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査
217206		家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査
217207		医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	2006	患者体験調査
217208		国民の緩和ケアに関する認識	3018	世論調査（仮）
217209	国民の緩和ケアへの理解度向上	国民の医療用医薬品に関する認識	3019	世論調査（仮）

\* 中間評価に向けてデータを整備予定

#	分野別アウトカム	分野別アウトカム指標	3期	データソース
200006	患者・家族のQOL向上（苦痛の緩和）	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012	患者体験調査
200007		精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013	患者体験調査
200008		療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査
200009		療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016	遺族調査
200010	緩和ケアの質の向上	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3032	遺族調査のサブグループ解析（全死亡のうち在宅死亡）

#	最終アウトカム	最終アウトカム指標	3期	データソース
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査